

主張

11月2、3日に開かれる第32回新婦人全国大会が目前です。「歴史の岐路、いのちと地球を守れ」と打ち出した大会議案の通り、まさに日本も世界も大激動の情勢のなかの大会です。

先の衆参両院選挙で少数与党となった自公政権は、石破首相の退陣表明と自民総裁選での高市氏選出、26年続いた自公連立の崩壊、数合わせの首相指名と右派の取り込みなど、自民党政治はいよいよ行き詰まっています。新婦人は会長談話で、古い自民党政治への回帰と危険性を指摘し「歴史の逆行を許さ

ないために新婦人を大きくし、平和と要求実現の共同を広げていきましょう」とよびかけました。

本紙10月18日号「新婦人創立63年 女性たちが動かしてきた」がどこでも話題です。1面、2面、3面などをどこでも読み合せて、「新婦人すごい」「いま会員を増やそう」と大いに活用しましょう。

その場でお誘いしたい人を出し、全国5万人を超えるすべての読者、あらゆるつながりに「新婦人

大激動の情勢！新婦人を大きくして、歴史的な全国大会成功を

「一緒に」とよびかけましょう。意識的に次世代につなぐ仲間づくり、委員会やよりきるための会議、LINEニュースなど、特別の体制と手立てをとりましょう。

「なんでもおしゃべりでき、政治もタブーにしない」「全国に仲間がいて、ひとつにつながって」「世界の女性と連帯、国連NGOの魅力も、忙しい人も、人生を重ねた人も会員としてゆるやかにつながって、「いま、新婦人に入って平和の力に」と、仲間を増やして歴史的全国大会を成功させましょう。

“呼びかけ”が待たれている！ 目標達成し、新婦人大きく

静岡支部

要求いっぱい 会員大募集！



新聞ちぎり絵の体験コーナーも大人気

一人ずつ迎える 全班が目標に 静岡支部は30班あり 県内で一番大きく、前大会時は300人を超える会員数でした。大会目標を、全班が前大会時よりも一人ずつ増

やして32回大会を迎えようとした。現在、前大会時現勢は突破し、目標まで17人に迫っています。

8月の常任委員会で「目標、もつと少なくしといたらよかつたなあ」「誰が決めたん？」

など弱気な声も飛び出しましたが、ここで立ち止まるわけにはいかないと、支部委員会で話し合い、目標をやりきるための3つの手立てを考えました。

1つは、「会を強く大きくしたい。力を貸してほしい」とすべて

目指してがんばろうと班を励まして、達成班を広げようとした。

さっそく読者を訪ね、入会リーフを渡して率直に訴えると、「病気もあるから何もできないよ」との話。「会員としていてくれるだけいいのよ」と話すと、「応援したいから」とうれしい入会に。猛暑で体調をくずして健康体操小組を退会した人にも声をかけると「復帰する」と2人が入会。

初の小組誕生で 元気に

新しくできた手づくり小組「キドキのファッションショー」

向かうきつかけは、北部で開いた小組合同体験会(写真)です。北部の葛蒲班はベテラン会員もいて人数も多かったです。小組はつくれないと言っていた葛蒲班から、初めて「太極拳をやりたい！」と声が上がった。講師と会場を見つけた、初の小



組が誕生。さらに他班の小組に参加していた会員に「葛蒲班にも手作り小組を作ったら」と話し、2つ目の小組も誕生。「班に小組ができたら新しい会員も入って、班活動もすごく楽しくなった」と元気になりました。

これをきつかけに北部の4班が、合同で今年4月、初めての小組体験会を開き、当日は10人を超える入会がありました。わらわら班が独自に開いた体験会のチラシの効果もあり、4・5月には合計28人も会員を迎え、大会時現勢突破の大きな力になりました。

選挙・しんぶん タイムも力に

小組だけでなくつながりを深めようと、小組でもしんぶんタイムや選挙タイムをとり、政治のおしゃべりを大事にしました。市議選の時には市に要望したいことを出し合

い、選挙を自分事を感じる対話が広がりました。新婦人が平和を大事にしていることも伝わり、おしゃべりの中でお互いの関係も深まるので、退会する人は少なくなっています。

入会のおよびかけを待っている人はたくさん

組合女性部と新婦人の結成



海上の北緯27度線、親子はと旗を受け取った外間さん(当時25歳)と沖縄でも展開

し、初めての公立保育所を開設させました。会員の息子さんがポリオにかかり、「小児まひの生ワクよこせ」の運動では、輸入したソ連製のワクチンが認められず那覇港で海に捨てられました。そこで、腹巻きにワクチンを隠して本土から持ち込むなどみんなで苦労しました。戦争未亡人が多く、会員で励ましあい、先輩の宮城ヨネさんに「戦争への道反対と平和だ」と諭されました。算数教室を広めたのも宮城ヨネさんでした。

1964年の沖縄返還要求8・15海上大会では、新婦人の親子はと旗を私が掲げました。 つづく

聞き書き 母の歴史

沖縄県 外間久子さんのお話 (7)

1962年、職場(琉球政府)で沖縄県職員労働組合女性部を作り、初代委員長を務めました。その頃は、「ケネディ・ライシャワー路線」と呼ばれた「アメとムチの政策」が入り、組合はすいぶん圧力を受けました。駐日米国大使・ライシャワー氏は、本土では親日家の評価があるようですが、私の印象は組合への強い弾圧です。組合懐柔のため、米国の国際自由労連の大学に行かないかと、同労連のM氏に呼び出されましたが、一晩考えて米国行きは断りました。

同時期、米軍政府の下で、人権や民主主義が踏みしめられていたとき、新婦人からの連帯の呼びかけで、1963年6月に「新日本婦人の会沖縄」を結成しました。初代会長は瀬長フミさんです。「ポストの